

景気後退後の大学卒業者、社会経験と共により好条件の職業へと移行（1月11日）

ニューヨーク連邦準備銀行（Federal Reserve Bank of New York）は、報告書「景気後退後の大学卒業生のキャリア初期における過少雇用（Underemployment in the Early Careers of College Graduates Following the Great Recession）」を発表した。これによると、卒業後間もない大学卒業者の中には、大学教育を必要としない職業に就いている者もいるという状況が景気後退後に発生しているが、大半は社会経験を積んで、より好条件の職業へと移行していることが明らかにされた。具体的には、2009年～2013年の米国コミュニティ調査（American Community Survey）のデータを分析した結果、卒業後間もない大学卒業者（22～27歳）の45%は大学教育を必要としない職に就いているが、同期間に大学教育を必要とする職業に就いていた20代前半（22～23歳）の大学卒業者の割合は48%であったのに対し、20代後半（26～27歳）では大学卒業者の割合は59%で、経験と共に教育に見合った職業へと移行していることが判明したという。

なお、本報告書は、

<https://www.newyorkfed.org/medialibrary/media/research/staff_reports/sr749.pdf?la=en>
からダウンロード可能。

Federal Reserve Bank of New York, Working as a Barista After College Is Not as Common as You Might Think

<http://libertystreeteconomics.newyorkfed.org/2016/01/working-as-a-barista-after-college-is-not-as-common-as-you-might-think.html>